

せい ろう まち
せ 聖籠町
議会だより

VOL.
98
平成24年4月13日発行

希望いっぱい
夢いっぱい
(蓮湯こども園修了式)



教育の充実 防災の強化

～新年度予算を可決～

**9人が一般質問
追跡レポート**

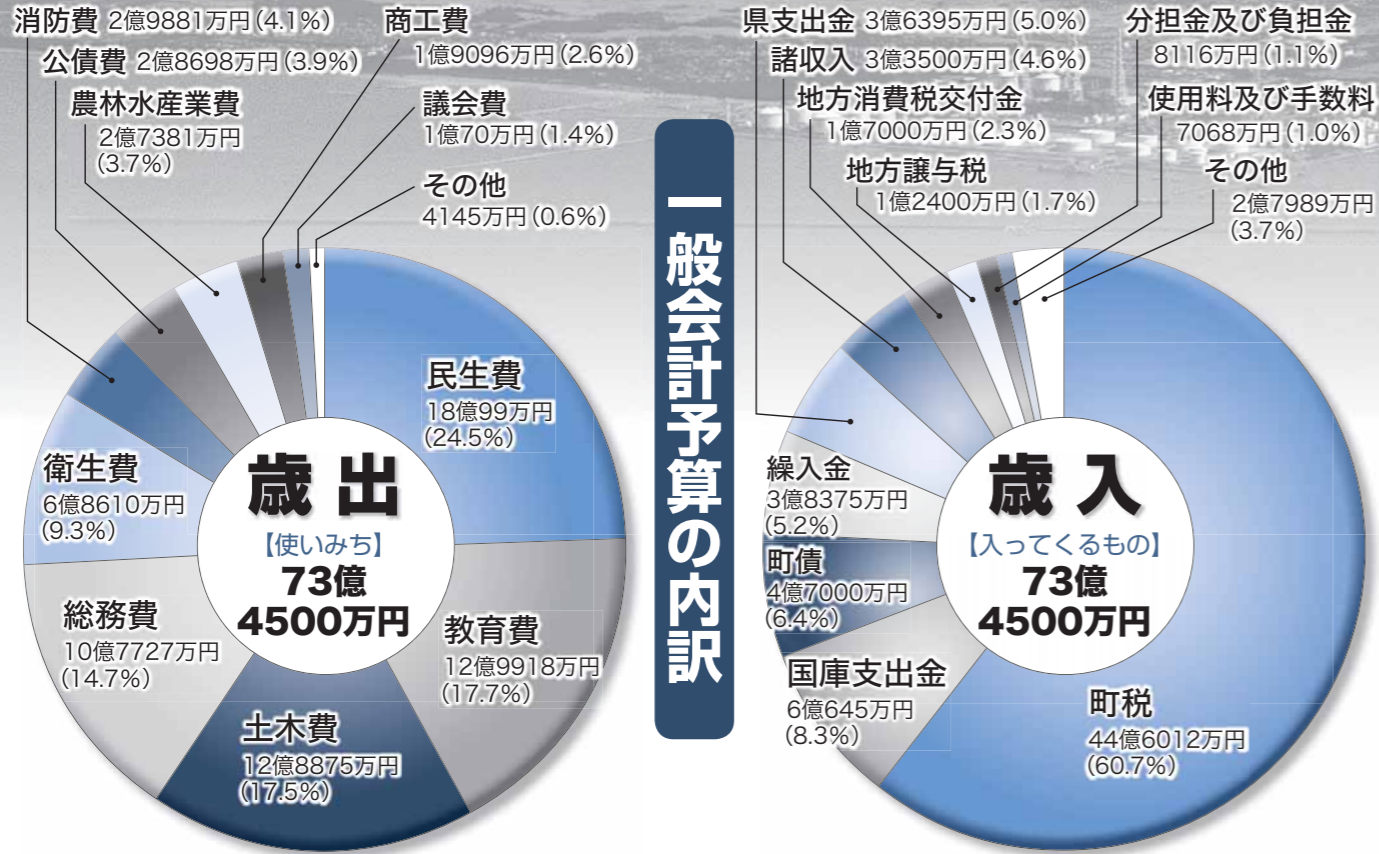
2～7ページ

15～24ページ

26・27ページ

防災の強化 教育の充実 環境政策の推進

3月定例会



一般会計予算の内訳

一般会計予算 73億4500万円 (前年度対比2.7%増)



平成24年度一般会計予算は、歳入歳出それぞれ73億4500万円、前年度対比2.7%の増となっている。

歳入においては、全体の60.7%を占める町税は44億6012万円、前年度の46億2080万円に対して1億6000万円の減。率にして3.5%の減となっており、町税の減収が続いているため課税客体の把握に努められたい。

一般会計予算

歳出においては、義務的経費、経常経費の継続的な圧縮・削減で、全般的に歳出抑制に努めていること。高齢者生活支援金の増額や役場庁舎の耐震補強・外壁改修などを含む防災計画の見直し着手。聖籠町の新たな宣伝効果が期待される「海のにぎわい館」のオープンなどは評価できる。

【歳出】

民生費→高齢者・児童福祉など／教育費→学校、公民館、図書館など／土木費→道路・公園の維持・整備など／衛生費→保健事業、ごみ処理など／総務費→公害・交通安全対策、選挙など／公債費→町が借りたお金の返済／消防費→消防団活動、防災無線など

平成24年度 7会計総額

112億1046万円

(対前年度比2.2%増)

- 一般会計 73億4500万円 (2.7%増)
- 国民健康保険特別会計
 - 事業勘定 13億109万円 (0.4%減)
 - 施設勘定 1億3162万円 (2.8%増)
- 介護保険特別会計 9億9738万円 (4.0%増)
- 後期高齢者医療特別会計 7426万円 (1.7%増)
- 県営開拓パイロット事業聖籠町特別会計 954万円 (0.3%減)
- 下水道事業会計
 - 収益的支出 5億8581万円 (0.4%減)
 - 資本的支出 3億2787万円 (14.0%増)
- 水道事業会計
 - 収益的支出 2億4641万円 (0.7%減)
 - 資本的支出 1億9148万円 (11.9%減)

【歳入】

町税→町に直接入るお金(固定資産税、町民税、軽自動車税など)／国庫支出金→国が出す補助金／県支出金→県が出す補助金／町債→税源不足による借入金／繰入金→特別会計や各種基金から繰り入れるお金

予算審査特別委員会

平成24年度一般会計予算、特別会計予算、事業会計予算の7会計を、平成24年3月13日から16日の4日間にわたり、各会計及び各款ごとに慎重に審査を行いました。

自主独立の道を進む町として、行財政改革の実行と同時に広く町民の声を吸い上げ、町と町民の協働によるまちづくりを進める。そのための効果的な施策の構築を願うものです。

3月定例会は、3月6日から19日までの14日間の会期で開かれました。新年度にあたっての町長の施政方針表明があり、町長から提案された平成24年度一般会計予算、4特別会計予算、2事業会計予算のほか、23年度補正予算、条例の改廃、指定管理者の指定などの26議案を慎重に審議し、いずれも可決しました。また、請願1件を採択、陳情1件を不採択としました。

一般質問では9人の議員が、防災、教育、農業振興、除雪対策、固定資産税過誤納など町政全般について、2日間にわたり厳しく問い質しました。



平成24年度 新規・重点事業とQ&A

行財政の透明化に向けて (広報、広域行政、消費者行政など)	未来を創る産業 (農業、漁業、商業、観光など)	快適な生活環境 (環境、公園、都市計画など)
<p>主な事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○固定資産税過誤納還付金 4492万円 ○広報・広聴活動の充実事業 328万円 ○消費生活支援事業 317万円 	<p>主な事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー利用検討業務委託事業 300万円 ○緑地保全・緑化推進事業 2346万円 ○海のにぎわい館指定管理委託事業 1175万円 	<p>主な事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○弁天潟風致公園整備工事 2億0000万円 ○道路維持管理・除雪事業 1億7989万円 ○下水道事業安定化対策事業 4億664万円 ○生ごみ堆肥化事業 4379万円
質 疑	質 疑	質 疑
<p>問 固定資産税の過誤納による1345万円の補てん金は、町民の税金からの負担である。これについて町長は町民に対しどのように説明し対応するのか。</p> <p>答 議会を通じて説明するのはもちろんだが、今後は再開予定の「ふれ合いトーク」や、当事者への訪問によって説明し、理解を求めたい。</p>	<p>問 東港振興費用が計上されているが、総合的拠点港にふさわしい利用がされることを期待する。今後の見通しと町の関わり方は。</p> <p>答 東港は国のエネルギー政策の中での革新的エネルギーの拠点となりうる。それら国策と連動しながら企業誘致に臨んでいきたい。</p>	<p>問 弁天潟風致公園はこれからの町の観光名所、桃源郷となりうる財産で、さらなる整備が望まれる。公園完成予定はいつか。</p> <p>答 現在の工事は平成25年度で終了する。その後は松林も含めた整備も考えたい。</p> <p>問 役場周辺地区の整備計画があるが、具体的な内容は、住宅建設か。</p> <p>答 総面積は約64ヘクタールで、一般住宅地と商業エリアの整備を目指している。</p>

生きる力を育む教育 (こども園、小・中学校、社会教育など)	安全で安心できる町づくり (防災、防犯、高齢者・児童福祉)
<p>主な事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小・中学校教育の充実関連事業 2億8448万円 ○スポーツ活動支援関連事業 4934万円 ○文化会館事業 3800万円 	<p>主な事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○役場庁舎耐震補強・外壁改修工事 2億7059万円 ○消防・防災対策の整備・充実関連事業 2億6093万円 ○高齢者福祉の充実関連事業 4億338万円 ○母子保健の充実関連事業 6719万円
質 疑	質 疑
<p>問 小学校管理費が前年度対比で1167万円増加している。その中身はなにか。</p> <p>答 きめ細やかな指導の充実に向け、非常勤講師と介助員の増員を予定。これは国の緊急雇用対策事業とあいつつ町の単独事業である。</p> <p>問 スポーツ振興事業費の中でアルビレックス関連費が700万円増えているが、他のスポーツにも予算を分配できないか。</p> <p>答 この予算はアルビの地元である新潟県・新潟市・聖籠町が連携して行うもので、アルビのホームタウンとして参加させてもらう。他のスポーツには違った形での支援も考えている。</p>	<p>問 役場庁舎耐震化工事の工期と内容は。その間、町民サービスへの影響はないか。</p> <p>答 工期は9カ月の予定で、庁舎の西側と東側に筋交いを入れる。町民サービスにはできるだけ支障がないように取り組む。</p> <p>問 消防団員数の減少が止まらなないと聞くがより効果的な消防・防災のため、分団編成をやり直す考えはないか。</p> <p>答 相対的に見直すことを考えている。広域消防と連携してできるよう事務局に指示している。</p>

老人クラブへの助成を



おぐま せいじ
小熊 清治
(桃山)

私は老人クラブの役員ですが、最近町老人クラブの事業計画が予算面で大変苦しくなっていると聞いています。
このため、従来年2回実施していたカラオケ演芸まつりも1回となり、スポーツイベントも回数

を減らしている現状です。予防医療という観点からも、高齢者の健康活動を積極的に展開していく意味でも、老人クラブへの助成金について配慮をお願いします。

仕掛けや魅力の創造に期待



あきやま みきこ
秋山 幹子
(蓮野)

昨年、15年間住んでいたフランスから故郷聖籠町に戻りました。聖籠町は農業と工業が調和した大変住みやすい町ですが、私は観光にも力を入れていただきたいです。と言っても既存の観光資源を生かすのでは

なく、田舎の魅力を残しつつ現代の人に受け入れられるまちの計画的な創造です。それによって雇用が増え、農産物が売れ、より活気ある町になるでしょう。

町です。あとは人を呼び寄せる仕掛けや魅力をどう創るか。期待してます。

福祉の安定を望む



おやなぎ ゆきこ
小柳 順子
(東山)

町予算の使われ方についての概略は広報で報告されていますが、町民の意見や要望がどの程度反映されているか知ることができません。また予算はそれなりに必要な範囲で作成されていると思いますが、今日明日にでもという突発的な事例は多

くはないと思います。将来的に最も望まれることは町全体に対する福祉の安定だと思います。予算の使われ方としては、福祉に対する基金の創設なども住民から理解の得られる配慮ではないでしょうか。

～予算への 思いを聞く～

町の声

聖籠町は一般会計予算と6つの特別会計予算を合わせると、毎所で今回は、町民の皆さまに町や議会に対する予算の使い年齢、職業、お住まいの地域などによって、いろいろな意見議会としても今後の活動の参考として、皆さんの声を反映で

年100億円余りの予算を使っています。方について考え方や要望があるか町の声聞いてみました。があると思います。きるよう町へ働きかけていきたいと思います。(敬称略)

さらなる助成制度の充実を



かいぬま さとし
貝沼 聡
(杉谷内)

私は新発田市から引越してきました。聖籠町はさまざまな助成があり子育てしやすい環境です。ごみ袋の無料支給などもあり、家族で住むにはとても生活しやすいところと思っています。

これからも町民への各種助成制度を充実させ、合併しない、暮らしやすい町であり続けることを願います。

夕陽散歩ラインの整備を



たかはし みやこ
高橋 ミヤ
(網代浜)

網代浜から次第浜へとつながる「夕陽散歩ライン」を作っていたきたい。

夕陽を見ながら、夕方散歩することができ、ついでに健康になれる。途中に休む場所もあると良いですね。そんな素敵な遊歩道を

作ったらどうでしょうか。また、周辺の道路(網代浜に接続する東港道路)にも信号機を設置していただきたい。

防災費の増額を



わたなべ てるお
渡辺 照夫
(次第浜)

経済混乱の中、今年度の一般会計予算は73億4500万円で前年度対比微増です。町税収入は1億6千万円の減収です。私が思うに、昨年起きた東日本大震災に学び、消防費の中の防災費約2200万円(新潟県に

おける24年度防災費は380億円)では小額と思います。昨年の教訓では、一次災害(津波)、二次災害(火災)、三次災害(原発破壊)など、本町も複合災害の想定対策などの組織が必要不可欠です。災害時町民1カ月分

くらいの水と食料などの備蓄対策が構築されていても良いかと思えます。予算の想定額は、優秀な役場職員に委ねることにしたいと思えます。

定例会

【主な議案】

- 町暴力団排除条例の制定
- 町食料・農業・農村基本条例の制定
- 町特別職の職員で常勤のものとの給与に関する条例の一部改正
- 町子ども条例検討委員会条例の制定
- 町長寿祝金支給条例の一部改正

町暴力団排除条例の制定

町民が安全で安心して暮らせるよう、暴力団の排除を進めるために制定するものです。

この条例では町及び町民の果たすべき務めや役割、町の仕事からの暴力団の排除、子どもたちが犯罪被害を受けるなど指定されています。

主な質疑

教育機関で行う指導とは

中村恵美子議員 第6条の暴力団を利用するとはどのようなことを想定しているのか。また、第9条の学校などの教育機関で行う指導とは、学校が行うのか。

警察と連携して進める

教育長 中学生を対象と

して警察と連携して進める考えで、教師が直接指導することは想定していない。

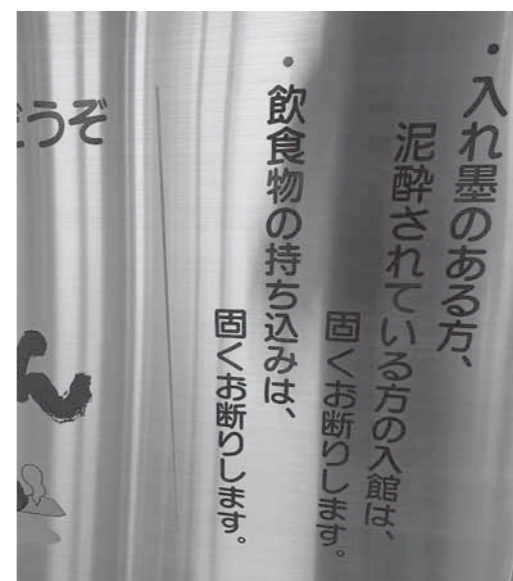
生活環境課長 第6条の暴力団を利用するとは、暴力団に事務所を貸すなどの行為を指す。

入れ墨の人にはどう対処すべきか

五十嵐利栄議員 入れ墨をした人がざぶーんに入浴しているが、町民としてどのように対処すべきか。

行為に注視する

ざぶーんの入り口には入れ墨お断りの表示があるが、現実にはまったく機能していない。



▲入れ墨のある方の入館はお断りです

生活環境課長

入れ墨イコール暴力団とはならない。その人の行う行為に注視し、不法行為があった場合を規定する。入れ墨を入れた人の入浴規制は条例制定後に協議を進めたい。

保護は警察で行う

生活環境課長 警察と連携して進めることを想定しており、町民の保護は警察が行う。

全会一致で可決

町食料・農業・農村基本条例の制定

町の農業および農村の振興並びに豊かで住みよい地域社会の実現を目指して、町、農業者、町民、事業者のそれぞれの立場での務めと役割を定め、協働して農業を生かしたまちづくりを進めるために制定するものです。この条例の特徴として、町の条例では初めて前文が付け加えられました。

主な質疑

前文の語調を変更できないか

宮沢光子議員 町の条例として初めて前文がつけられたが、語調が「です」「ます」は条例になじまない。「である」調に変更できないか。全国の多くの自治体でも前文を置くものがあるが、「です」「ます」調の条例はない。

また、この条例には農業の重要な担い手である女性農業者に対する視点が欠けている。どのような論議があったのか。

また、この条例には農業の重要な担い手である女性農業者に対する視点が欠けている。どのような論議があったのか。

前文の表現は自由

町長 前文を設けるのは、

「背景」「目的」「方針」について法令に基づかないものを定める場合に使用される。前文は条文形式ではないので表現は自由。今後は特に目的を持つものについては前文を設ける考えである。

産業観光課長 女性農業者は条文にある多様な担い手に含まれると解釈している。

なぜ前文を設けるのか

小川益一郎議員 前文が答申文の丸写しはどうか。条例には法的な正当性や他条例との整合性もなければならぬ。前文を設けることには違和感がある。しかもなぜ前文のみ「です」「ます」でなければならぬのか。

政策的に必要なときは前文を設ける

町長 政策的に必要なときは前文を付ける。「です」「ます」調は条例検討委員会と町の意識が一致した結果である。

反対討論

渡辺利道 議員

この条例の前文には農業への基本理念をうたっており、町、町民の決意を示すものとしなければならぬと考える。

しかし、語調が適当でないものとなっているため、大変弱いものとなっている。また、前文の中には不要な文言が多く入っている。農村文化についての記述もない。この条例を制定するにはまだまた検討すべきことが残っている。



▲新条例の適正な運用を

賛成討論

桜井 怜 議員

この条例の検討には現職の農業従事者が関わっており、その人たちの考えを尊重すべきであること。

と。語調は町民にわかりやすいものとしたと理解できる。

起立採決の結果、賛成多数で可決

- 第4次総合計画の実施
- 行政改革の推進
- 子ども条例検討委員会の設置
- 生ごみ堆肥化事業の全町実施

施政方針表明



渡邊町長

▼平成24年度は、第4次総合計画を策定して最初の予算編成となったことから、当該計画の基本方針を尊重しつつ、選択と集中により優先度の高い事業へ重点配分しました。

▼協働によるまちづくりの実現のため、適正な人員配置に向けた事業見直し、補助金のあり方の抜本見直し、職員の意識改革に取り組みます。併せて、行政全般に新しい公

共の概念を念頭に行政改革を検証します。

▼次代の聖籠町を担う子どもたちが健やかに育つよう、仮称子ども条例制定のため、子ども条例検討委員会を設置します。

▼生ごみ堆肥化事業は農家から利用価値があることを確認できたため、24年度から全町で実施します。

▼昨年の東日本大震災を受けて、町の防災の基本

となる地域防災計画の見直しを進めるとともに、津波による被害想定を定めたハザードマップの見直しを行います。

▼農業を取り巻く情勢は、農業者の高齢化に伴う担い手不足、生産基盤整備、優良農地確保、付加価値農業の推進など、多くの課題を抱えていることから、「町食料・農業・農村基本条例」を制定し計画的に推進します。

▼町役場周辺地区の適切な開発を促進するため、地区計画の策定に向けた取り組みを続けます。また、自然環境の活用と緑の創出を図るため、弁天湯風致公園の整備を進めます。

▼学力向上推進総合事業、囲碁ふれあい事業などの取り組みを通じて、学力の向上と社会性の育成に努めます。

▼学校給食の調理業務を労働局からの指導により、24年度から民間委託を完全実施します。

町長、副町長の減給条例

税務課の課税誤りによる処分として、常勤の特別職（町長、副町長）の給与の10%を1ヵ月削減するため、特別職で常勤のもの給与に関する条例を一部改正するものです。

主な質疑

減給1ヵ月の根拠は

小川益一郎議員 課税誤り

で使う税金1300万円に対し、減給1ヵ月10%では14万円程度で、処分としては少ないのではないか。根拠は何か。

町長として範を示すもの

町長 他の自治体では職員のみで、首長の減給処分はない。町長として範を示すものである。

可決



▲トラクターにも課税誤り

可決された議案など

専決処分の承認

除雪費の補正について地方自治法第179条第1項の規定によりなされた3件の専決処分について、それぞれ承認しました。

- 承認第1号 平成23年度町一般会計補正予算（第7号）金額 1000万円
- 承認第2号 平成23年度町一般会計補正予算（第8号）金額 2500万円
- 承認第3号 平成23年度町一般会計補正予算（第9号）金額 1500万円

可決された条例の制定など

- 町学校給食運営委員会条例の制定
- 町子ども条例検討委員会条例の制定
- 地域の自主性及び自主性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定
- 町税条例の一部を改正する条例の制定
- 町長寿祝金支給条例の一部を改正する条例
- 町介護保険条例の一部を改正する条例
- 町道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例
- 下越障害福祉事務組合規約の変更
- 指定管理者の指定（聖籠町海のにぎわい館）
- 平成23年度町一般会計補正予算（第10号）
- 平成23年度町特別会計・事業会計補正予算（5会計）
- 町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 専決処分事項の指定（議員発議）

固定資産税過誤納金補てん金4492万円

2月17日開催された全員協議会で町長から議会に対し、固定資産税の課税誤りがあったので、24年度予算でこの固定資産税を還付したい旨の報告がありました。

一 課税誤りの背景

- (1) 土地
 - ① 住宅用地の課税の特例の適用誤り
 - ② 農業用施設用地の適用誤り
 - (2) 家屋
 - ① 冷凍倉庫の経年減点、補正率の適用誤り
 - (3) 償却資産
 - ① 農耕作業用自動車にかかる課税客体誤り

二 過誤納金の法的根拠等

地方税法の規定により5年以内は還付する。5年を超えて時効が成立部分については、地方自治法232条2を適用し、要綱を定めて返還する。

三 補てん金の返還期間

還付の5年間と課税並びに納付記録や申告記録により確認できる期間。

四 還付の件数・金額等の明細

（下表参照）

五 再発防止のための改善策

4項目にわたる改善策が文書で報告された。

議会の対応

還付金4492万円については平成24年度一般会計予算に計上され審査の結果、国の制度改正などの把握を適格に行い、職員資質の一層の向上を

還付の件数・金額等の明細

	対象者数	本税及び還付不能額	還付加算金及び遅延損害金相当額	合計	期間
土地 住宅用地	31人(38筆)	1,739万円	724万円	2,463万円	H 4~H23
土地（農用地区域） 農業用施設用地	13人(17筆)	201万円	108万円	309万円	H12~H14
土地（調整区域） 農業用施設用地	9人(16筆)	311万円	194万円	505万円	H12~H23
家屋	2社	181万円	110万円	291万円	H 5~H13
償却資産	133人	715万円	209万円	924万円	H15~H22
合計		3,147万円	1,345万円	4,492万円	

はかることなどの意見を付して可決した。町長及び副町長の本件に関する責任については、本紙10ページ記載のとおりである。

一般会計補正予算

保育業務委託料
 東日本大震災救援宿泊施設借上料
 道路整備業務委託料
 財政調整基金積立金

5087万円減額
 8050万円減額
 1060万円減額
 6000万円

平成23年度一般会計補正予算は既定予算に歳入歳出それぞれ2億2564万円を減額し、総額73億4006万円を可決しました。
 主なものは、保育業務委託料5087万円減額、東日本大震災救援宿泊施設借上料8050万円減額、道路整備業務委託料1060万円減額、財政調整基金積立金6000万円などです。



▲施設管理の徹底を

主な質疑

講師賃金
 大幅減の理由

中村恵美子議員 原爆被災地平和記念式典派遣業務委託料の12万円減額と、中学校非常勤講師賃金170万円減額のそれぞれ理由は、

実績により減額

総務課長 式典参加を2

新卒者採用による

学校教育課長 県の指導賃金を目安として10人分計画したが、新卒者に来てもらったことで単価を安くできた。

子どもの命守れ

五十嵐利栄議員 蓮野小

現場把握を徹底する

学校教育課長 現状把握が甘かった。機器の点検など先をみた取り組みを

食糧費の用途は

宮沢光子議員 東港振興費の食糧費35万円が減額された。
 食糧費の具体的な使用方法は、
 東港振興室長 拠点港の動きの中で、企業訪問し町の説明、宣伝する際、地場の土産を食してもらう際などに活用している。

地場産のPRに活用

東港振興室長 拠点港の動きの中で、企業訪問し町の説明、宣伝する際、地場の土産を食してもらう際などに活用している。

除雪費増額

専決処分3件合計5000万円を承認

除雪対策費として、既定の予算に1000万円・2500万円・1500万円、合計5000万円を追加した一般会計補正予算(7号・8号・9号)を専決処分したことを承認した。

主な質疑

排雪実施地区は

渡辺利道議員 排雪を実施した地域はどこか。

5集落などで実施

ふるさと整備課長 ひばりが丘・別條・八幡・亀塚の集落などである。

除雪でいくら使ったか

五十嵐利栄議員 今日現在までに使った今年の除雪費はいくらか。



▲豪雪でたいへんだった今年の除雪

7114万円使った

ふるさと整備課長 除雪

今年の除雪の反省を来年に向けてどう生かすか。3月16日に委託業者や直営オペレーターなどを集めて、反省会を計画している。

読者の声



まさみつ 正光さん
 (蓮野)
 のみや 二宮

「あの日から一年」

多くの人命を奪い、平和な町や村を一瞬にして無残な瓦礫に化した東日本大震災からちょうど一年、いまなお多くの被災者は苦難と闘う生活を強いられている。いち早く聖籠町が体育館などの施設に受け入れた三百余名の避難者の方々は今どうしているだろうか。彼らにも本当の春がきてほしい。

震災直後、しばらく自粛していたテレビの娯楽番組だけは完全に復活し

現地ではがれきの除去も遅々として進まず、放射能汚染も解決にはまだほど遠い。
 震災後の処理をめぐって多くの国民が国の対応に失望している中、せめてわが聖籠町においては町民との接点である議会

で、健全かつ実のある議論を行ってさらなる町の発展につなげていただきたい。
 過去二十一年間に日本は大きく変わった。かつて世界経済をリードしたパワーは衰え、老大国とな

ってしまった。
 しかし、聖籠町はまだ若い。発展の原動力となる人口の増加も見込んでいる。あらゆる分野においてこれからの分野にある。行政や議会の方々が町民の潜在力をフルに引出してくださるよう心から期待して止まない。

9議員が質問

渡辺 利道 議員 (16ページ)

1. 県道に歩道整備を
2. 最重点施策は何か
3. 除雪出動の判断は誰が行う

中村 恵美子 議員 (17ページ)

1. 国保に繰り入れを
2. 給食食材の放射能測定を
3. 住宅リフォーム助成を

堀 常正 議員 (18ページ)

1. 職員の除雪派遣研修を
2. 海岸線にハマナス植栽を
3. 激励費の増額を

宮沢 光子 議員 (19ページ)

1. 実態が不明12年カリキュラム
2. どうする学校設備の修理
3. 防災計画見直しの公表時期は

五十嵐 利栄 議員 (20ページ)

1. 施政方針どう具体化する
2. 農家負担の軽減を
3. 職員の棒給表見直しは

高松 守雄 議員 (21ページ)

1. 危機感を国・県に示せ
2. 東港隣接地の活用

小川 益一郎 議員 (22ページ)

1. 過誤納金など4500万円弱時効無視返還

田中 智之 議員 (23ページ)

1. 柔道必修化の安全対策は
2. 「新しい公共」とは

青木 順 議員 (24ページ)

1. ついに上がる給食費
2. 除雪には万全の対応を

ズバリ 直言

町政を問う

一般質問

次回の定例会は、
6月中旬開催予定です。

みなさんの 請願・陳情

第1回定例会では、地域住民より直接の声となる請願2件、陳情1件が審査され、請願1件を採択、1件を継続審査とし、陳情1件を不採択としました。

採択した請願

◎TPP交渉参加に向けた協議の中止を求める請願
〔提出者 農民運動新潟県連合会 今井 健〕

継続審査となった請願

◎地域を支える中小建設業者の仕事確保と地域経済の振興のための「住宅リフォーム助成制度」の創設を求める請願書
〔提出者 新発田民主商工会聖籠支部長 中村 登〕
理由 請願の趣旨について、なおも確認する必要があるため。

不採択となった陳情

◎議場に国旗・町旗を掲揚することを求める陳情
〔提出者 日本会議新潟県本部 会長 内田 力〕

意見書を国・県に提出

第1回定例会で1件の意見書が提出され、全会一致で可決されました。可決された意見書は、国の関係機関に提出し、実現するよう要請します。

◎TPP交渉参加に向けた協議の中止を求める意見書

請願（陳情）書の書き方

町民の皆さんの意見、要望などを町政に反映させる方法のひとつとして請願・陳情の制度があります。請願書・陳情書は、請願（陳情）する方の住所、氏名を署名または記名押印して、紹介議員（陳情の場合は不要）2人以上の署名または記名押印を受け、請願（陳情）の要旨、理由を記載したものを議長あてに提出してください。

【記載例】

（表紙）

〇〇に関する請願（陳情）書
紹介議員 〇〇〇〇 印
※陳情の場合、紹介議員不要

（内容紙）

〇〇に関する請願（陳情）書
要旨・・・
理由・・・
（要旨・理由を簡単に要領よく記載してください。）
平成 年 月 日
聖籠町議会議員 〇〇〇〇 様
請願（陳情）者の住所
氏名 〇〇〇〇 印



須貝 龍夫 議長

新潟県町村議会議長会副会長として、多年にわたる議会の運営および地域の振興発展に貢献された功績に対し、このたび（平成24年2月）、須貝龍夫議長が全国町村議会議長会から表彰されました。

自治功労者に対し 全国町村議会議長会からの表彰



中村恵美子議員

問 ①国民健康保険について上越市では、3年間連続で値上げに対する条例改正をした。しかし、3億円のうち1億円を法定外繰り入れをし、値上げをしなかった。聖籠町でも一般会計より繰り入れを行い、国民健康保険税の軽減を行うべきだ。

②町では資格証、短期証の発行が多くなっている。資格証、短期証の発行の削減をするべきだ。

③生活を著しく窮迫させおそれがあるとき、人

権侵害、生活破壊となる国民健康保険税の取り立てはやめるべきである。

町長 ①国保は、当初からの無条件での繰り出し、繰り入れは、特別会計の独立採算制の原則からも問題がある。

②国保は納税者にとっていろいろな状況で、滞納状況にある。その辺を理解しながら町で対応している。

③資格証、短期証の交付は、審査委員会、交付の基準の適正な審査による。

り交付している。

町長 当初からは問題である

国保に繰り入れを



▲定期的な測定で安心を

給食食材の放射能測定を

教育長 4月中旬から週1回

問 学校給食の食材については、1カ月に1回、1品しか調査できていない。学校給食の食材の検査体制を抜本的に強化するべきでないのか。

福島原発事故による放射能測定を、学校や子ども園などホットスポットになりやすい場所を調査し、子どもを持つ親の不安にこたえるべきである。

教育長 地域振興局にある放射能測定機器で4月

中旬から行う予定である。週1回1品目を抽出検査し、結果を町のホームページで公表したい。

町長 町では7月から毎月学校等の空間放射線量を測定している。ホットスポットについては、役場の雨水ポンプ池の確認を行った。

その結果、周辺の放射線と同様で、ホットスポットは確認できなかった。

住宅リフォーム助成を

町長 優先すべき事業がある

問 住宅リフォーム助成制度は経済効果が10倍から20倍といわれている。上越市は、1億円の予算を1日半で終了した。住宅リフォーム助成制度の創設を行うべきである。

町長 住宅リフォームについては、ほかに優先すべき事業がいっぱいある。

県道に歩道整備を

町長 重要な要望と認識している



渡辺 利道議員

問 主要地方道新発田村上線は、大夫交差点から聖籠インターまでの県道改良が完成し、両側に歩道が整備された安全な道となった。

聖籠インター先の追分から佐々木方面の歩道整備も、町にとっては重要な課題である。この県道は佐々木駅に通じる道路として、通勤・通学で多くの町民が利用している。小・中学校生の通学道路でもあり、道路の端を車をよけながら通学するようすは、大変危険な状況である。また、消雪パイプの水の出方も大変悪い。町長の考えは。



▲改良なった県道 山大夫周辺

町長 指摘箇所の歩道・安全施設整備が地元の切なる願いと承知しており、交通量の緩和施策として追分から新発田方面の町道整備をした経緯がある。地元の意向を含め、前向きに進めていく必要性を認識している。

最重点施策は何か

町長 防災対策など

問 町長は第4次総合計画基本方針を尊重しつつ実施計画との整合をはかり、選択と集中により優先度の高い事業へ財源を重点配分した予算とのべているが、24年度の最重点施策は何か。

また、その施策の実施のため、特に重点配分した事業は何か。

町長 24年度は東日本大震災を受けて重要度を増した防災対策、医療・介護・保健づくりの推進、子育て環境づくりの推進、

東港を核とした地域経済の活性化に重点を置いた。特に重点配分にした事業は、防災対策として役場庁舎の耐震化と地域防災計画及びハザードマップの修正などである。

除雪出動の判断は誰が行う

町長 タクシー会社に委託

問 除雪作業は雪国に住むものには必要不可欠なものであり、町では地域経済の足の確保のため、午前7時ごろまでに除雪

が完了する計画であった。しかし、朝8時過ぎても除雪されず、通勤に支障をきたしたり、以前より除雪が下手になったという話も聞く。

除雪の出動はいつ、誰が、どのような基準で決めているのか。また除雪技術の指導は行っているか。

町長 夜間の除雪の出動判断は町内のタクシー会社に委託している。

除雪の作業能力向上対策では、町従事者には指導しているが、受託者には特に指導していない。



宮沢 光子議員

新学習指導要領の焦点の一つ「道徳教育」や年代に応じたキャリア教育などを、学校だけでなく町ぐるみで取り組むべきではないか。

問 町立幼稚園に保育機能をつけたのは聖籠町独自の子育て支援策の一環であるが、幼稚園教育の質の低下を招いているのではないか危惧している。町には、幼・小・中12年間のカリキュラムがあるが、子どもたちの教育にどう生かされているのか。理念だけのようで現実感がない。

町長 国の子ども・子育て新システムにおいて、聖籠町の幼保一体の取り組みは、一つのモデル的な対象になっている。幼稚園教育は、小学校との連携を意識した教育内容と指導方法を改善し充実している。

教育長 12年カリキュラムについては、毎年見直し改善をはかりたい。「道徳教育」や「キャリア教育」についても、12年カリキュラムを編成し、教育現場での指導指針としたい。

どうする学校設備の修理

町長 安全・安心が最優先

問 町内3つの小学校は築年数から学校設備の老朽化が懸念される。今冬、蓮野小学校の暖房機器の不具合が発生した時の町の対応に疑問が生じた。安全で快適な学校施設を維持するために、計画的なチェックと予算をどう考えているか。

町長 学校施設は子どもの安全・安心を確保することが絶対要件である。教育委員会からそのために必要な要請があれば、予算をつけることは町長の責務である。

教育長 蓮野小学校の暖房の不具合については、現場と何らかの行き違いがあった。今後、きちんと対応できるように課内のシステムを見直す。

町長 町の教育現場での指導指針 実態が不明 12年カリキュラム

問 町立幼稚園に保育機能をつけたのは聖籠町独自の子育て支援策の一環であるが、幼稚園教育の質の低下を招いているのではないか危惧している。

町長 国の子ども・子育て新システムにおいて、聖籠町の幼保一体の取り組みは、一つのモデル的な対象になっている。

幼稚園教育は、小学校との連携を意識した教育内容と指導方法を改善し充実している。

教育長 12年カリキュラムについては、毎年見直し改善をはかりたい。「道徳教育」や「キャリア教育」についても、12年カリキュラムを編成し、教育現場での指導指針としたい。

防災計画見直しの公表時期は

町長 平成24年度中に公表

問 東日本大震災を教訓とした町の防災計画の見直し事項の公表はいつか。

町長 防災計画の見直しは現在検討している。県との整合もはかる必要がある。町独自の見直し課題について、検討段階での混乱を招くような情報開示は控えたい。

公表時期は、平成24年度中にしたい。

職員の除雪派遣研修を

町長 今後検討したい

問 今年の大雪は町民に大変な支障をきたした。特に、道路除雪では多くの問題を残すことになった。例年と違って、除雪だけでなく、圧雪はぎ取りや、道路の幅出し作業が多く、町の除雪対応も非常に苦労した。

町長 今後は、幹線道路の2車線確保、車のすれ違い場所、あるいは雪の撤出場所確保などの除雪計画マップの作成や、効率的除雪と町民の安全を守るため、除雪基準のマスタリや技術向上に努めるとともに、機械オペレーターと関係職員を除雪先進地などに派遣研修をすることも必要でないか。



堀 常正議員

町長 今年度の豪雪を踏まえて、来年度に向けた地形などを考慮したマップ作成を考えたい。また、オペレーターや関係職員の能力向上研修を開催したいと思う。なお、職員の派遣研修は、今後検討したい。

海岸線にハマナス植栽を

町長 植栽を進めたい

問 4月から海のにぎわい館が開館する。海洋レクリエーションの拠点施設として、関係団体や地域住民に活用されると思う。これを機に町の花ハマナスを生かした海岸線の自然景観保全や、今後整備される散策道。公園にハマナスを植栽できないか。

町長 海のにぎわい館の植栽は本年度中に行う予定であり、ハマナス植栽も予定にある。

町の花ハマナスをサイクリングロード、散策ロードなどに配置する。海浜の原風景の保全の一環として植栽を進め、広くハマナスを周知していただく。

激励費の増額を

町長 振興基金を検討する

問 ここ数年小中高生のスポーツ活動が盛んになり、競技の成果も良好である。これに伴う遠征費もかさみ、大きな大会での保護者負担は多額となっている。町のスポーツ激励費の増額はできないか。

町長 スポーツ激励費は遠征費補助を目的としたものではないため、スポーツ振興基金造成をしてみんながわかりやすい形で公平に使っていくことも一案。今後、対応する必要性もあると考える。



▲望まれる除雪技術の向上

避難場所
Emergency Shelter Area
町民会館
Community Center

のため避難しなければならないとき町が指定している避難場所です。

身の安全の始末で初期消火

高さ 6.4m
ゆれたら高い所へひなんしましょう
聖籠町

▲災害に備えて新たな海拔表示



五十嵐利栄議員

となる313万円余りの研修費を計上し、接遇研修や資質向上研修に取り組む。

農家負担の軽減を

町長 国の基準より町負担増やした

問 国営加治川用土地改良事業は、老朽化した施設を改修し水資源を確保するために重要な事業であるという、大前提を踏まえて農家負担の軽減策について伺う。
答 (1) 上水道利用者には、一定の負担を要請できないか。
(2) 市・町の負担を10%まで増やし、農家負担を5%まで下げられないか。
(3) 新発田市内に新設する「松岡ため池」の工事費38億円は聖籠町農家は直接的な受益はない。この経費を町で負担できないか。
(4) 本事業が終わった後、新たな事業は発生しないか。

町長 加治川上水道利用者への経費負担要請は、本事業の外枠の負担となつているので無理がある。市・町の負担は、国の基本計画より、町の助成を2%、4800万円上積していることを理解願いたい。

松岡ため池の負担は、本来内の倉ダムを改修すれば、受益者全体にかかる問題だが、ダムの増設が困難なため行う事業であることを理解願いたい。国営土地改良事業完了後は、県営の改修事業が計画されている。聖籠土地改良区では、用水路の老朽化に伴う、補修工事の実施について調査検討中。

職員の俸給表見直しは

町長 現状が妥当

問 町職員の俸給表は1級〜10級まであり、自治体により最高俸給級が異なる。県や新潟市は9級、新発田市は8級、聖籠町が係る広域団体も8級を採用している。聖籠町は6級だが、せめて7級まで見直す考えはないか。
町長 県内10カ町村では6級が8町村、5級が2村である。また市でも6級が10市あり、現状が妥当と考えている。



▲これからはじまる土地改良事業

施政方針 どう具体化する

町長 重点施策3点を集中的に

問 施政方針で述べている、第4次行政改革で、3年間の短期集中取り組み重点施策3点の具体的な方策をどう考えているか。
答 (1) 適正な人員配置では、3年間で何人削減するか。
(2) 補助金政策はどう転換していくか。
(3) 職員の意識改革は具体的にどう展開するか。
町長 人員削減については、数値目標の設定はしていない。行政全体を総点検し、無駄を排除した後、速やかに削減に向けた見直しを行う。

補助金については、長寿祝金など補助的性質を持つ町単独事業について見直しを行う。職員の意識改革については、73万円余りの増額

危機感を国・県に示せ

町長 5月末までに撤去

問 昨年の大震災の教訓を生かすべく、現在検討を行っている防災会議防災検討部会の情報の開示と具体的な見直し事項はいつ公表されるのか。
答 2月7日夕刻、新潟東港でコンテナ船と衝突したロシア船が沈没した事故では、※LNG船の着岸には支障がなかったものの、一刻も早い港の全面機能回復を望む。

一口メモ ※LNG(エルエヌジー)とは? 天然ガスを低温で加圧・液化したものを液化天然ガス。

電所を支えるLNG基地は、安定供給拠点としての使命がある。危機感を持って港の改修を国や県に示してはどうか。

町長 防災検討部会の意見集約については、特に津波被害対策重視に検討を重ねている。県の津波のシミュレーションと整合し、検討を加え災害ハザードマップに修正を加え、24年度末に知らせたい。

震災後、需要増で存在感を増した東新潟火力発電所。また、そうした発



高松 守雄議員

町長 沈没船は県より船主側に本年5月末までに撤去命令が行われた。東港の安全な機能回復に向け、引き続き県との情報を密にしていく。

東港隣接地の活用

町長 国策も誘導

問 暫定利用しているゴルフ場は、亀塚の住民が集団移転したところで、東港工業用地として造成した土地である。県は20数年、毎年協議を行い結論が「要請」でも何も進歩がない。
町長 経済情勢の変化など、やむを得ない面もあるものの、早く東港の特徴や地理的優位性を生かした取り組みを進められないか。

町長 新潟東港、港を核とした町づくりが聖籠町の今後の発展に不可欠である。東港の港湾機能からの税収ではなく、背後地に広がる工業団地に企業誘致が進み産業の集積がはかられてこそ、聖籠町の将来にわたる町づくりのための原資となる。その大事な一等地140ヘクタールの広大な土地が、現在ゴルフ場として目的外使用されている。国策を誘導していく形で革新的エネルギーの環境戦略という計画。それら国策と相まった中で企業誘導策に望んでいく。



▲沈没船の引き揚げ作業はじまる



田中 智之議員

柔道必修化の安全対策は

教育長 安全へは十分配慮

問 4月から中学校では柔道の授業が必修化される。武道を通じて日本の伝統や文化に親しむこと、礼儀作法や相手への思いやりの心を習得するなどのねらいは良いが、一方で保護者や各々からは、授業中やふざけ合いの中での事故の危険性に不安の声が出ている。

「安全は最優先の課題」であるが、町では「指導計画モデル」を準備しているか。指導教員に柔道の指導経験はあるか。町独自の安全対策は講じているか。

教育長 指導モデルは示していないが、聖籠中学校では数年前から前倒しで男女共、体育の授業に柔道を取り入れている。また学習内容は24年度からは受け身と固め技に絞って指導する。担当の教員は有段者を含めてほぼ指導経験もあり研修も受けている。

今後は複数体制の指導や、外部からの指導者を要請するなど、安全が確保されるような体制を最大限とっていく。



▲安全対策に万全を



小川益一郎議員

過誤納金など4500万円弱 時効無視返還

町長 町民に深くお詫びする

問 長年にわたり、固定資産税の課税誤りによって188人から税金3147万円を誤納徴収し、これの還付加算金及び遅延損害金1345万円を返還することにいった。

税法改正に求められ、税法の解釈や法改正には特段の平時の研さんが必要である。

①今回の課税誤りをどのように町民にお詫びし、町民の理解と信頼を回復するのか。

②町長・副町長が4月の報酬10%返上するというが、これで責任を果たしたことになるのか。

③還付利息額1345万円は町民の税金である。この処理はどうする。

④担当した職員の見解はどうなる。

⑤還付金の※消滅時効は5年である。5年以前の還付金を補てん金で当てるとしているが法的根拠を示せ。

⑥このような不祥事は町

行政の行政資質を問われている職員の資質向上にどう取り組む。

⑦再発防止策どうする。

⑧今回の課税誤りは税務課のみでなく、全行政にも起こり得る事案である。長期政権による緩みでないか。

町長 このたびの固定資産税の課税誤りについては固定資産税のみならず税全体の信頼を失墜するものであり、町民の皆様・納税者の皆様に多大なご

迷惑をおかけし深くお詫び申し上げる。

①課税制度の適正を期し信頼回復に努める。

②報酬10%返上は、信頼失墜の責任を重く受け職員に範を示したものである。

③還付加算金は地方税法の枠組みを超えて対応し、公益上の必要性を認める場合適用する補てん金として、町の公金から返還する。

④現職の職員には厳しい対応を基本的に考える。

⑤税務行政の信頼回復と納税者の不利益を補てんすることは公益上の必要に合致すると考え、返還するものである。

⑥職員資質の向上と職員研修を継続的に実施したい。

⑦徹底した法令順守をする。

⑧課税誤りは長期政権から成るといふ次元の問題でない。

迷惑をおかけし深くお詫び申し上げる。

①課税制度の適正を期し信頼回復に努める。

②報酬10%返上は、信頼失墜の責任を重く受け職員に範を示したものである。

③還付加算金は地方税法の枠組みを超えて対応し、公益上の必要性を認める場合適用する補てん金として、町の公金から返還する。

④現職の職員には厳しい対応を基本的に考える。

⑤税務行政の信頼回復と納税者の不利益を補てんすることは公益上の必要に合致すると考え、返還するものである。

⑥職員資質の向上と職員研修を継続的に実施したい。

⑦徹底した法令順守をする。

⑧課税誤りは長期政権から成るといふ次元の問題でない。



▲適正対応を求められる課税事務

一口メモ
※消滅時効とは？
一定の期間行使されない権利を消滅させる効果を生ずる制度をいう。

その他の質問
問 住宅リフォーム制度の導入を施策として活用せよ。
町長 助成制度は考えていない。

「新しい公共」とは

町長 自発的な協働の場

問 第4次行政改革大綱には、町民福祉の向上のために行政改革と併せて、地域に「新しい公共」を創出する仕組みが必要で、町は創出を支援すると記されている。

「新しい公共」が住民やNPOが主体となった公共サービスの提供、社会的課題の解決を意味するならば、現在も自発的なボランティアや防災を担っている消防団などは公共サービスを行っている。

となると、この「新しい公共」と「今までの公共」はどう違うのか。

また、その仕組みを創ることが町の行政にどのような効果をもたらすのか。

町長 日本には古くから支え合いと活気のある社会をつくる知恵と社会技術があったが、個人主義の広がりと共に社会に役割を果たすという住民意識は希薄になり、公共官という意識が高まっていった。

しかし、少子高齢化が進み成熟期に入った本町では、これまでのように行政が金や物をつぎ込んで問題を解決することはできない。今後は公共が地域の中にあつたことを思いだし、公共を再編成し、それぞれが当事者として自立心を持ちつつ周りの人々と協働する。それが「新しい公共」であり、問題意識の共有と協働が住民意識の高揚という効果につながると考える。



青木 順議員

ついに上がる給食費

教育長 ぜひ理解を

問 4月から給食費が値上げになるとのことだが、食材等の高騰により仕方がない。23年間にわたり、低価格を維持してこられたのも町の職員、調理現場及び食材供給者の努力と英知の結果である。しかし、今後も食材の高騰や光熱費の値上げなどが予想される。

町民に負担がかかり過ぎないよう、地元農家と協議し、地産地消を進め、町だけでなく町民が豊かになる町づくりをすべきだと考えるがどうか。

教育長 給食に関係する方々の協力、努力のおかげと考える。これまでも何度か食材などが高騰したが、なんとか低価格を維持できた。しかし、現

在の食事環境に合った献立で学校給食を提供することが難しくなってきた。これまで聖籠町の給食単価は、県の平均を大きく下回っていたが、さまざまな経緯の中で値上げをお願いせざるを得なかったことについて、理解をいただきたい。教育委員会としても、最大限要望にこたえながら、地産地消を進めていきたい。



▲地産地消で学校給食を

除雪には万全の対応を

町長 万全な体制をとる

問 今年の冬は、非常に厳しい冬となった。調べてみると年々雪の量が増えている。さまざまな意見や苦情があったが、この雪では仕方がないとも思えた。

現在町が委託している

22業者のうち、17業者が町内の業者である。委託業者も昼夜問わず住民の生活を守るためと、協力している。その中で町民や業者間で、不平・不満が起きないためにも、今後の大雪に備え、しっかりと取り組んでもらいたい。が、考えを聞きたい。

町長 除雪対応に本業なみに対応していただいているのは、本当に頭の下がる思いであり、敬意を表したい。また22業者のうち地元の17業者の協力が体制が不可欠である。今後受託業者の確保に取り組んでいかなければならない。

また、除雪の判断基準を誤り、苦情が出るということがないようにしたい。近年大雪の傾向にあり、来年度に向けていろいろと検討していきたい。

その他の質問

問 聖籠町子ども条例の目的は。

町長 子どもに関する総合的な施策展開である。

閉会中の委員会報告

万全か新学習指導要領への備え

総務文教

1月26日、教育の現状（新学習指導要領の取り組み含む）と学校施設の活用状況について、聖籠中学校、亀代小学校、蓮野小学校および蓮瀧こども園の現地調査を行った。

聖籠中学校では、新学習指導要領の取り組みを学校長から説明された。

新指導要領に対する備えとして、基礎的な知識・技能の定着と学習意欲向上を課題とした学校運営を行っている。その中で、学力も着実な向上が見られ、それに伴い学校全体も落ちついてきていると報告があった。また、来年度から実施される武道必修化では柔道・剣道・相撲の中から、柔道を選択したとの報告もあった。

学校全体として、学力向上はもちろん、規範意識を見につける教育の実践と同時にキャリア教育にも力を入れ、生徒が職場体験などを通して、将来を見据える力を身につけるよう指導していく方針のことであった。

蓮野小学校では暖房器具の不具合があり、対応に苦勞しているとの報告を受けた。



38ヘクタールが作付過剰

厚生産業

1月24日に委員会を開催し平成23年産米の需給調整状況と平成24年産米の需給調査見込みについて調査した。

平成23年産米の需給調整の状況は、23年産米の主食用水稻の作付が、本町の水田面積1156・48ヘクタールに対し配分面積は728・45ヘクタールであるが、作付面積は766・73ヘクタールとなり、38・28ヘクタールが作付過剰となった。

町の水田農業確立対策事業に対する助成は、当初6千万円であったが最終的な助成額は6713万円となった。

平成24年度の生産目標数値は4009・45トンと昨年比（平成23年度）5・52トンの減であった。

生産数量目標等の配分は平成19年産米から「新たな受給システム」に移行したことにより、システムに基づき前年（平成23年）に準じて配分されることである。

また、「海洋レクリエーション施設」の現地視察も行い、平成24年4月のオープン後は、施設機能が充分発揮されることを期待する。





陳情 町道を整備してください

陳情名 道路整備の陳情書
提出者 山大夫区長 中村義人
議会採択年月日 平成20年9月22日

処理状況

用地買収・物件補償業務など終了
平成22年度に用地測量を終了。23年度に物件調査・補償、用地買収を終了しました。

今後の計画

平成24年度に道路改良・舗装工事の着手・終了の予定です。



陳情 地区防災道路を整備してください

陳情名 藤寄集落下通り地区防災道路整備に関する陳情書
提出者 藤寄副区長 遠藤博
議会採択年月日 平成20年9月22日

処理状況

用地測量業務など終了
平成22年度・23年度に用地測量業務（町道藤寄1号線・2号線）、物件調査業務（町道藤寄1号線）を終了しました。

今後の計画

平成24年度に物件調査業務（町道藤寄2号線）、用地買収・物件補償業務（町道藤寄1号線）を行う予定です。

第14回

追跡

レポート

その後どうなった
請願・陳情のゆくえ

平成20年から22年の間に議会で審議・採択された請願・陳情は、
請願が17件、陳情は22件ありました。
その中でも、特に町民から提出され、私たちの生活に深くかわか
る4件の陳情について、その後の状況を調査しましたので皆さんに
報告します。



陳情 農道を舗装してください

陳情名 農道整備（舗装）の陳情書
提出者 道賀新田区長 加藤富広
議会採択年月日 平成22年9月30日

処理状況

調査・設計業務終了
平成23年度に舗装工事にかかるCBR（路床土支持力比）調査・道路設計業務を終了しました。

今後の計画

平成24年度に工事着手・完了の予定です。



▲工事着手前のようす（平成22年3月撮影）



陳情 農道を舗装してください

陳情名 農道舗装の陳情書
提出者 聖籠町大字大夫興野
地権者代表 桜井清
議会採択年月日 平成20年6月23日

処理状況

改良・舗装工事終了
平成22年度に用地測量、物件調査、用地買収業務を終了。23年度に改良工事・舗装工事ともに終了しました。



▲現在のようす

お知らせ

議会を傍聴してみませんか
次回の定例会は、
6月中旬開催の予定です。

今、町ではどんなことが論議されているのだろうか。どんな計画があってどう進んでいるのだろうか。あなたに身近なことも知れません。お気軽に傍聴においでください。

会議録は、町の図書館と保健福祉センター、診療所にあります。どうぞご覧ください。

なお、一般質問の通告一覧は、定例会開催前に役場案内、町民会館、図書館、保健福祉センターに設置されています。



職員異動のお知らせ

議会事務局職員に異動がありました。(敬称略)

【退職(平成24年3月31日付)】

ご苦勞様でした。

事務局長 肥田野繁晴

【新任(平成24年4月1日付)】

よろしく申し上げます。

事務局長 神田 礼輔

(学校教育課より)

議会広報対策特別委員会

議長	須貝 龍夫
委員長	五十嵐利栄
副委員長	渡辺 利道
委員	堀 常正
	田村富美男
	田中 智之
	青木 順

みんな

の

ページ

聖籠町に嫁いで来たお嫁さん

日々 感謝です



すわ えりこ
諏方 恵理子 さん
(杉谷内)

Q どんなきっかけで彼と知り合いましたか？
友達の友達でした。

Q 聖籠町に嫁いできてどんなイメージを持ちましたか？

現在妊娠中ですが、医療費の一部を助成していただいたり、3歳からの保育料が無料だったり、子育てしやすい町だと思いました。

聖籠町に嫁いで来たお嫁さん、今回は新発田市出身で平成23年7月に嫁いで来た諏方 恵理子(旧姓 小池)さんです。
皆さんよろしく申し上げます。

Q 町での生活はどうか？(楽しい新婚生活のエピソードもあったらお聞かせください)

何もできない私ですが、家族やまわりの方々にとっても良くしていただいております。充実した生活を送っています。
日々、感謝です。

Q 町に望むことはありますか？

これからも、住みやすい町であって欲しいと思います。

編集後記

東日本大震災から一年、この大震災を教訓に、津波の襲来を前提とした防災計画へと見直しが必要で進んでいる。

町の平成24年度予算でも役場庁舎の耐震化、津波災害を想定した地域防災計画が反映されている。

新潟東港工業地帯を抱える町の防災計画は町民すべてが安心できる完全な計画でありたい。

行政と地域住民の連携はもちろんであるが、地域とマッチした防災計画にかかわりをもつのも町民の努めと思う。

今こそ災害に備えを。

議会広報対策特別委員会

委員 堀 常正